

平成24年3月市議会定例会から “新しい稚内”の実現に向け“挑戦の年”

3月2日から開会された市議会定例会で、工藤市長は、平成24年度市政執行方針を述べたほか一般行政報告を行いました。

※全文を一部要約して掲載しています。



重点施策

今、わが国、世界、そして地方も、政治、経済、社会環境など様々な観点から、大きな時代の転換期を迎えています。本市においては、4月に駅前再開発ビルが、いよいよグランドオープンします。色々な意味で、新しい稚内”の時代を迎えます。本市の中にも“子育て支援”や“まちづくり”、“健 康づくり”などで、積極的に地域貢献をしようと立ち上げる方が現れはじめ、こうした若い方々に“新しい稚内”を創っていく希望とエネルギーを感じています。来る平成24年度は、“新しい稚内”の実現に向け、具体的に動き出す“挑戦の年”と位置付け、全力で取り組みます。

3月2日から開会された市議会定例会で、工藤市長は、平成24年度市政執行方針を述べたほか一般行政報告を行いました。

こうしたことから、私が公約として掲げた「10の約束」の実現も含め、「安心の確保」を目指し、その上でさらなる「地域の発展」を進めるための施策を開示いたします。

【基本方針1】 人を呼び込みにぎわいのあるマチづくりを推進する

本市が置かれている経済状況や、市民の皆さん心配される様々な不安を踏まえ、「防災対策」をはじめ、小学生医療費の無料化など「子育て環境の整備」、福祉や医療、交通基盤の整備など、「生活の安心」を確保する施策が、何より必要であると考えました。

その上で、さらに「地域の発展」のため、本市のポテンシャル”を最大限に引き出しながら、産業振興や雇用の拡大に結び付ける取り組みを進めることが重要であると考えました。

特に将来の産業創生への可能性も秘めた、再生可能エネルギーを柱としたエネルギー問題への対応、また、日本海側拠点港に選定され

市が開設する「地域交流センター」には、市民活動などのための会議室、「キッズルーム」のほか、「まちなか情報コーナー」も設置し、日本最北の「道の駅」の指定も受ける予定であります。

これまで築いてきた「サ

ル・モール・モール・モール」として、ロシアとの定期貨物航路実現に向け、ロシアや北東アジアへの物流ルート調査を行なうほか、北海道と連携して、道内の生鮮食料品などを輸出する、物流ルートを実証実験なども進めます。

日口定期フェリーの運航を継続して支援するほか、「日本海側拠点港」に選ばれた稚内港が、これから基盤整備を進めるために必要な「港湾計画」の改定作業を行ないます。港湾計画の改定作業を、引き続き行ないます。

4月29日、稚内駅前再開発ビル「Kitacolor (キタカラ)」が、グランドオープ



昨年、食マルシェでの南中ソーラン演舞

た稚内港と、サハリン定期フェリーを活用しての物流・人流の促進に、重点的に取り組む必要があります。

こうしたことから、私が公約として掲げた「10の約束」の実現も含め、「安心の確保」を目指し、その上でさらなる「地域の発展」を進めるための施策を開示いたします。

これらを踏まえ、平成24年度の市政運営にあたり、5つの基本方針を定めました。主な事業と取り組みについて、この方針に沿つて説明します。

中ソーラン全国交流祭』、『最北端・食マルシェ』を同時に開催して、最北の地の“魅力”と“感動”を全国に発信していきます。

『南中ソーラン全国交流祭開催事業補助金990万円

▼最北端・食マルシェ開催事業補助金500万円

▼コンベンション誘致推進事業134万円

▼合宿誘致推進事業400万円

▼携記念事業67万円

▼最北端・食マルシェ開催事業補助金990万円

▼南中ソーラン全国交流祭開催事業補助金990万円

▼最北端・食マルシェ開催事業補助金500万円

▼合宿誘致推進事業400万円

▼携記念事業67万円

▼合宿誘致推進事業400万円

▼携記念事業67万円

▼合宿誘致推進事業400万円

▼携記念事業67万円

▼合宿誘致推進事業400万円

▼携記念事業67万円

▼合宿誘致推進事業400万円

▼合宿誘